

「ハイワード」における大苗育苗の活用

大苗による早期成園化を目指して

定植時の状況(2020年3月、各区5樹定植)

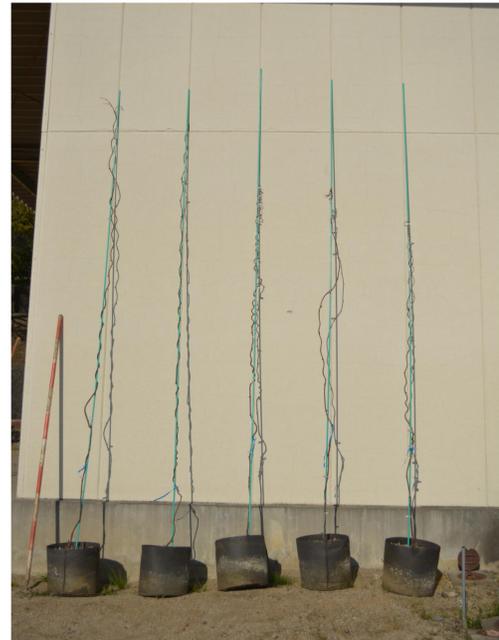
大苗区:共台に穂品種を根接ぎし、1年間25ℓのポットで育成



対照区:購入した1年生苗(慣行台)



大苗の育成状況(棚面の高さに切り戻し定植)



初期生育、収量、果実品質

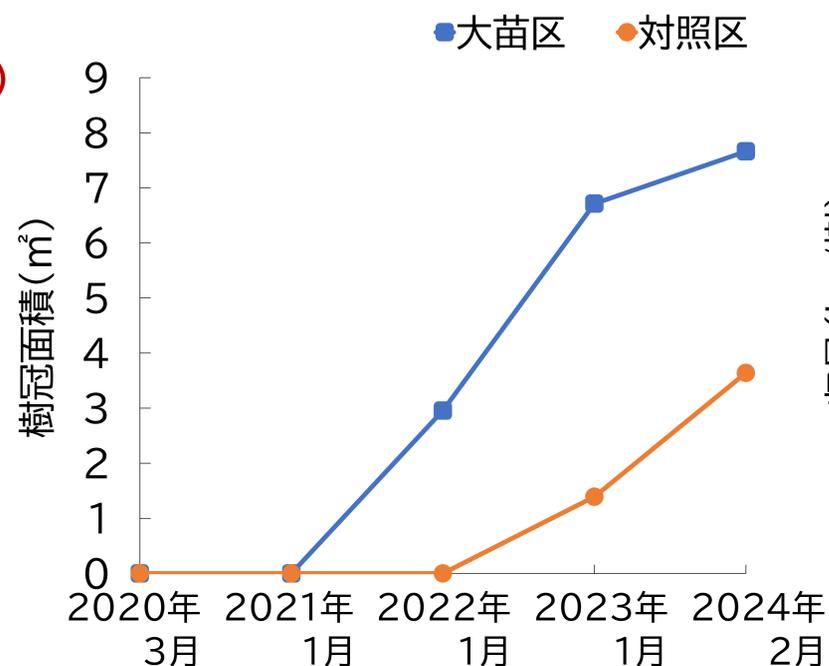


図1 樹冠面積の推移
※大苗区(n=5)、対照区(n=3)

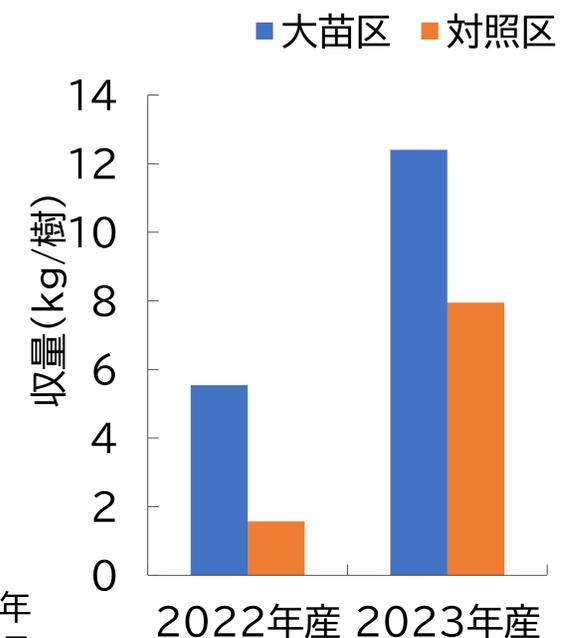


図2 収量の推移
※大苗区(n=5)、対照区(n=3)

表1 大苗育苗が苗の生育に及ぼす影響(2020年3月24日)

試験区	枝長(cm)	幹周(cm)	根の乾物重(g)		
			2mm以下	2mm以上	合計
大苗区	294.8	2.7	35.4	3.3	38.7
対照区	-	3.2	17.4	11.0	28.5

※n=5

表2 追熟果の果実品質(2023年10月28日収穫)

処理区	果実重(g)	果実の大きさ(mm)			果肉硬度(kg)	糖度(°Brix)	酸含量(g/100ml)
		縦径	横長径	横短径			
大苗区	87.2	62.8	50.0	43.9	1.83	16.1	0.47
対照区	98.4	64.8	52.0	45.6	1.88	16.6	0.36

※大苗区(n=5)、対照区(n=2)

- ・大苗区は、定植時の**根量が多く**、初期生育も良好であった。
- ・2023年産果実は、大苗区で小さい傾向にあった。大苗区は、樹冠拡大が良好であったため、2022年に全ての樹で初収穫を行ったが、一部の樹で着果負担がかかり、2023年は小玉傾向となった。
- ・大苗区は健全に生育しているのに対して、**対照区は3樹枯死**した(2024年9月時点、根腐病発病園)。